

## 寒河江市学校施設整備計画改定（案）説明会 質疑応答

会場：ハートフルセンター

日時：令和5年10月14日（土）13時30分から14時50分

参加人数：13名

出席者：教育長

学校教育課長（兼）学校再編整備室長

学校再編整備室 室長補佐

学校再編整備室 係長

（発言者A）

今回の説明に限らず去年からこの件については、非常な危機感をもって聞いてきまして、と申しますのは、醍醐小学校卒業で高松中学校に行って、今回の説明通りの事業化をされると小学校も中学校もなくなる、こういう危機感をもっております。それともう一つ非常に気になっておりますのは、同じように白岩、醍醐、三泉という寒河江川の左岸から学校がまったくなくなるということでございます。御承知のとおり寒河江市が昭和30年頃に合併したときには、寒河江町を中心にして白岩町、それぞれの村と称しているところがそれぞれ小学校、中学校をもって地域を構成しながら合併した経緯があったものですから、そういったことも考えて、学校というのがどういう性格をもっているのかということ、をいろいろ考えてみますと、私は前歴で国の役人も経験しました、県も出向して経験しました、市役所も出向して経験しておりますが、地域のありようというのは、いろんな形がかみ合ってくるわけですね、とくにこの学校教育、義務教育の問題というのは、将来的にこの地域をどうするのか、その地域に住んでいる人がどんな生活環境だとか、どんな生き方をするのか非常に密接に結びついているわけなんです。これまで昨年からいろいろこういう説明会だとかに参加させていただきましたが、今回の小中学校の再編問題の本質的な問題は、市の人口減少と少子化ということが一番の大きな問題です。これまであり方検討委員会とか、地元説明会、講演会、パブリックコメント、有識者会議、様々な過程を見てきましたが、その中で本当に議論しなければならないのは、3つあると思っております。1つ目は、市民の不安にどのように対応していくのか。2つ目は、市民の理解と協力をどう得ていくのか。3つ目は、市民の合意形成をどのように築いていくかということだと思います。ところが昨年6月から7月に説明会をしたときには、説明では決まったことですからというようなことで、いろいろ不安や不満がでた意見をほとんど無視してきたということがあります。さらに、それをどのように扱うのかということをしちゃんと説明しないままに、この令和5年度に再検討ということで外部の有識者を呼んでとかという進め方をしております。こういう進め方というのはいかがなものなのか、さらには、地元説明会やパブリックコメントででてきた意見というのは、たくさんあるわけです。ところがその意見に対する回答は、5つくらい質問されたら答えやすい2問くらいしか回答されていない。残り回答が得られなかった3問分等については、別の場で説明するなり、あるいは、資料として公表するなりそういうことがあったのかどうか見て

きたのですが、ほとんどなされていない。その場のしぎでその場を過ぎたらもうおしまいだとそんなやり方をしている。これでは市民の合意形成や理解、協力を得ることからは離れていると思います。ですからここは、この進め方をきちんと説明してください。さらには、今回の説明の中で要望がでていることは別にして、なぜ、どうしてなんだということについて、きちんと回答されていないのですが、このことについては市議会で議論していただきたいと思うのですが、市議会の質問を聞いても、質問自体が事前通告制なので、通り一編の回答でシャンシャンとして、芝居を演じているような感じにも見えますので、問題は、寒河江市が抱えている、この学校再編というのは、寒河江自体が西村山の中心としての性格をもっているのも、非常に注目されているわけですよ。しかも、県内の市の中学校数を調べてみました。市全体で1校にしているところはどこにもございません。すべて複数校。この前、長井市に行ってきましたが、長井は寒河江よりも人口が少ないがそれでも中学校は2校です。そういったところとどこが違うのか、なぜ違うのかそういう部分が必要なのではないかなと思います。今日は説明の中で教育長からも話がありましたが、1つは市の庁舎内で課長級以上の検討がなされてこの結論を得ましたという説明がありましたが、何をどのように検討して、どのような意見があってどういう結論を得たのか、さきほど説明のあった資料の中には1つも記録されておられませんよね、これはやっぱり去年からずっとやっている決まったことだからという連続のところで仕事を進められている。そして、市民の理解を得るとか協力を得るとかをあまり大切だと思っちゃらないのではないか。そこはよく考えてください。

それから2つ目ですが、小学校、中学校の再編ですが、中学校については去年からずっと1校案と2校案が大局的な議論となってきました。その意見の取扱いについては項目別に表にして1校案の優れているところはここですよ、2校案の不安なところはここですよと物事の整理をしないと理解と協力は得にくいのではないかと。例えば、不登校の扱いをどうするか、教育の質、大人数がいいのか少人数がいいのか、児童・生徒、保護者の負担をどうするか、お金の問題とか、心理的なストレスの問題、部活動をどうするかとか、経済比較、地域振興と対策といったような、いろんなかかわりがあるわけですが、それを1校案と2校案で並べて、だったら1校案はここが優れているから、2校案はここが優れているがここが不安があるとか、そういう説明をされない限り、さっき示したような1校を進める理由①、②、③、④、だったら逆に言えば、2校案にしたら不安な部分はここですよと示さない限り十分な検討をして、そして、比較検討の結果こういう結果になったということにはならないのではないのでしょうか。とくに経済比較の中では、ランニングコストの部分としてスクールバスの必要経費が示されていない。どこに校舎を建設するかで計算自体が変わってくるわけですが、それは何かしらの比較資料を示さない限りは市民のみなさんの不安、不満に答えることにならないのではないかと思います。それから、事業費の比較のときに文部科学省の法律ですが、1/2、1/3の話が確かにでています。ただ、それ以外に今年3月末に文部科学省が示した施設をつくる時の基本方針が示されております。その基本方針には、数年前から始まりましたコロナの問題、災害対応の問題、これが地域の課題として非常に大きな問題になってきている。さらに

は、学校がもっている公共施設としての役割が大きいんだということを基本方針の中にしっかり書いています。その上からするとさっきでたような単純改築というのはありえないということです。学校施設は、重要施設なんだという前提で基本方針を作られている。とくに耐震化というのは、10数年前からどこの学校でも耐震化を検討しなさいとなっております。とくに寒河江の場合には、山形盆地の内陸型の地震ということで、北部と南部の2本の断層があるのはご存知ですよね。1本は寒河江の臥竜橋から河北町の方に向かって行って大石田までの北部ルートです。もう1本は、三泉から中山町を通して上山までのルートです。想定されているマグニチュードは7.3、阪神淡路大震災と同じ規模の地震が想定されている。この活断層のところは、全国30地区程度、数年前に総務省が公表したわけですが、こういったことからすると改築のときは当然耐震化の対策が求められるわけで、そういったことも検討しなければならぬ。もう1つは、バリアフリー化があります。障がい者に配慮するなり、バリアフリー化を進めなければならない。さらには、感染症対策、トイレなどの衛生環境、空調の改善、太陽光発電、エコスクール、さらには校内の通信ネットワーク整備を盛り込んでおります。そういうことを考えて行くと単純更新はありえない。補助事業認可に関係しましたが、一番重要になってくるのは事業の必要性、技術的な確実性、設計が適格かどうか、地元が納得しているかどうか、そういった面でしっかり説明されない限り説得力はほとんどないと思います。さらに基本方針では、PFIの手法も取り入れてはどうかと言っています。PFIというのは、イギリスから始まって刑務所を建てるのに受刑者からお金をいただいて、それを工事費に充てようというところから始まっておりますので、学校を建設する場合においては、地元から寄付金を募ってそれを工事費に充ててとということで、財政の負担をできるだけ軽減しようという発想です。さらには老朽化対策の部分については、長寿命化改良、予防改良も提唱されています。こんなことを含めて、基本方針で示されている内容をしっかり検討されて、比較資料としてより適切な資料に磨き上げて、市民に提示すべきではないか。さらには、有識者会議や講演会では建築家に偏った人選がなされている。建築家に相談されてふさわしい設計が出てくるわけですが、それをやるべきではないかと思います。

3つ目ですが、学校は地域のありように密接関わっているということは、学校がなくなれば地域の灯が消える。他の人からも学校が地域のどんなところなのかということで、その結果に応じては東根や天童に引っ越すとかそんな意見も地元説明会のときにあったかと思います。それと、これまで小学校では地域に根差した教育を行うと説明もありましたが、具体的にはどういうことをなさろうとしているのかこれを伺いたいと思いますし、小学校は中学校以上に地域のコミュニティにとって重要な施設であることを評価した上で、地震や水害のときの避難所になる確率が高いわけですから、これがさきほど申し上げた寒河江川の左岸地区から学校がなくなるとをどういう風にフォローされるのか、さらには、両親をそのまま西部地区に残しながら、さらに便利のいい寒河江のまちに転居する方が多い。残された廃屋の問題、人が住んでない住宅が点々としている。そういう地域の課題を放っておいて生徒が一か所に集まって大勢でにぎやかになればいいのかのような、そういう計画というのは地域全体の計画としては

どうなのか、大丈夫なのか、これから先、20年30年、次の代が自信をもって、誇りをもって寒河江で生活をしていくことを考えると、小中の再編問題は学校だけの問題でなく、市全体でどうするのか、こういったことを含めて考えていかなかったら取り返しのつかないことになるのではないかと。そういうことを考えております。整備、振興の格差はすでに寒河江市内に起こっております。公共工事がどんどん進んでいるところと、ほとんど見過ごされているところ、事業がほとんど入っていないところ、そこでは人口が極端に減っていて、あるいは一か所では極端に人口が増えているという問題がでてくる。そういうことをどういう風にするのか含めて地域振興策と併せて検討しなければ、この再編整備計画はものにならないと思います。以上です。

(教育長)

いろいろな面からありがとうございます。最初の市民の方の意見をどう取り入れていくか、理解を広げていくかということですが、おっしゃるとおり去年の5月、6月の説明会のときには、あり方検討委員会で検討され、その答申を受けて、市役所内でのいろいろな検討も踏まえ、教育委員会で決定した計画でしたので、その説明をしてまいりました。その計画については手続きを踏んで、さきほどお示ししましたような現行の計画になったわけです。ですからこういう計画になっておりますとご説明をしたということです。ただ、それに対して審議の過程がよく知られていなかったのではないかと、それから、周知不足でないかといったご意見をたくさんいただきましたし、今、お話にありましたように小学校が地域からなくなっていくとその地域がどんどん元気がなくなっていく、統廃合には反対だといったご意見等もたくさんいただきました。そうしたことで、説明会をやっていくなかで、そうしたご意見もたくさんありましたので、その後、保護者の方とか、説明等をおこなってご意見も伺いました。また、去年の秋にも地域の説明会、その中で保護者説明会を別に開催してほしいなどもありましたので、保護者説明会も開催しました。そうした中でご意見をいただいたわけで、例えば、小学校については、さきほどありましたように地域から学校がなくなるということがあって統合には反対というご意見もありましたし、保護者の方からは少人数でのいいところもあるけれども、もっと大きい人数の中で学ばせたいということで、統合に賛成だというご意見もありました。中学校の1校案、2校案についてもさきほど説明で申し上げましたような意見が、両方あったわけです。そうしたことも踏まえながら、秋のときには検討案ということで示させていただき、ご意見をいただいていたと思います。そうした中で、いただいた意見を踏まえて、そしてまた、庁内の会議では、さきほどありましたようにまちづくりの面からどう考えるのか、地域との関わりをどう考えるのか、そうしたことなどいろいろな面、そして他の公共施設も老朽化しているので、それを何とかしなければならない。西村山地域で大きな問題となっております病院の問題など、いろいろご意見をいただいたということです。そして、今回のような改定案ということでお示しさせていただいたということです。ですから、市民の声、意見を無視しているということがありましたが、そういったことではなく、そういったご意見を入れながらこういった改定案を作ってきたということです。

2点目の資料の示し方について工夫すべきでないかという点につきましては、ご指摘ありましたようにもっとわかりやすい示し方ができるようにやっていきたいと思えます。また、耐震化やバリアフリー、トイレ、SDGsに関わりますようなエネルギーの問題、そうしたことはこれから施設を作っていくときには検討していくということです。PFIについてもどうなのか検討しております。

3番目の地域に根差した教育に関わってとありましたが、子どもたちが低学年では、生活科とか地域に出かけて行って、いろいろな発見をしてそれを学びに結びつけるというのもありますし、総合的な学習の時間等で、例えば醍醐小では、慈恩寺にいらっしゃった方々に、子どもたちが歴史や文化財の説明を行うといった活動もしています。今後、さきほどの案で示させていただいたように白岩、高松、醍醐小学校が統合しても、そうした活動は醍醐の子どもたちだけでなく、西部地区の子たちがやっていくということもあると思えます。また各地区に伝統的な芸能活動があるわけで、そうしたことをすべて各地区でやるのは難しいのかもしれませんが、これは学校行事として引き継いでいこうとか、これは地域の方が中心になってやっていこうとか、そういったことを検討しながら対応していくことが大事かなと思えます。また、避難所の問題につきましては、学校が避難所になることがあるわけですが、学校以外の施設でも避難所になるわけで、学校の統廃合後の残った学校施設につきましても、避難所として活用するというところもあると思えます。その辺につきましても、市の防災の担当で検討している状況です。

(学校教育課長)

その他ございますか。

(発言者B)

私は基本的に賛成であります。教育分野に精通された方々が、考えて考え抜いたものに賛成であります。いろんな意見があると思えますが、これ以上基本線を変えない、変わらない、変えてはいけないところに軸足を置き、配慮すべきところは配慮する。教育環境を良くして、それでいて財源を悪化させないなど、どんどん意見を取り入れていただき、快適な教育環境を実現してほしいものだと思います。出来上がるのはまだまだ先の話ですが、生きているうちにいいものができたらと思えます。がんばっているみなさんの苦勞が報われる日がくることを応援しながら願っております。がんばってください。

(学校教育課長)

ありがとうございました。

(発言者C)

あり方検討委員会で答申した内容を有識者会議の委員の方にいつ、どこで、どのように説明したのかお伺いいたします。

(教育長)

有識者会議は3回開催しましたが、その前にあり方検討委員会の資料等もお渡しをしております。

(発言者C)

それだけなんですよね。第1回から最後の回まで私は傍聴しました。非常に申し訳ないですが、あり方検討委員会が答申した中学校2校案の方が多かった、意見として、まったく説明になっていない、認識していないで進んで、1校ありきで進んだのではないのでしょうか。そういう印象です。とっても問題ですね。事務局主導で操作して、有識者会議を動かしてしまったのではないか、危機感を感じました。そこを伺いたいと思います

(教育長)

誘導したとかそういうことはございません。きちんと説明をしましたし、私の挨拶の中でも1校案、2校案それぞれご意見いただいているとお話をしました。あり方検討委員会の中で中学校の1校案、2校案についての説明等もありますが、中学校の適正規模、適正配置については、熟議を経ても一つの結論に集約することができなかつたため、1校案と2校案の両論を併記することとしましたが、この件につきましては、他の施設との併設や財政の見通し等、市全体の方向性を勘案していただいたうえで市当局の判断に委ねることといたしました。また、中学校1校案、2校案は、答申ではこちらというのは明確に示されなかつたわけですが、その中では、「一度に2校の新築は財政的に難しいことも想定され、市内1校に統合するという選択もあり得ると考えます。統合時は900人を超える生徒数になりますが、その後、生徒数が減少していくことは厳に予想されるからです。」という答申の内容もありまして、そういった、あり方検討委員会でもどちらと決めかねたということがあります。我々として、1校案に有識者会議の先生方を誘導するとかはまったくしておりません。

(発言者C)

報道でもいろいろでしたが、2校案にしましたと記事でましたね、1校案に変えたという流れが進んでいるわけですから、しっかりとその辺は事務局として認識しなければならないと思いますよ。それから申し上げます。中学校2校案にした場合、国からの補助金がでないという説明ですが、こういう風にしたらできるのではないのでしょうか。メモとってください。例えば、陵南中の大半と陵東中の一部を統合します、次に、陵南中の一部と陵東中の大半と陵西中を統合します。これで2つの中学校ができあがる。どちらも統合しているわけですから国からの補助がでるのではないのでしょうか。こういうやり方があると思います。そして、中学校で陵南の一部の方、陵東の一部の方が今までとは違う学区に行ってしまうといことで、心配される方もいると思いますが、それは新しい中学校2つを特認校にすればいい。そして、今まで通りの学区の方にいきたいとなれば申請すればいいわけですよ、教育委員会で陵南、陵東の一部の学区変更をした方々は今まで通りのところに通学してよろしいですよというやり方を考えればよろしいの

ではないでしょうか。過去にあったわけですね。寒河江中学校が分割するとき陵東と陵南に、あのときはどうだったのか、国からの補助があったのではないのでしょうか。東根市なんかは、国の予算、一挙に2つ、学校を作ったときに別の文部科学省の予算ではないところ、別の予算で建てたというすばらしい対応をされたときがありましたね、ご存知ですか。そういうようないろいろなことを考えて、何も予算が市からでる、前の説明会のときにも申し上げましたが、ふるさと納税の積み立てしている予算がたくさんあるはずですよ。そこからどうですかというのに、一向に教育委員会は触れていません。ちょっとした事件が起きたので触れにくいのかもかもしれませんが。何憶も積み立てている。こういったことを検討してみてください。これはあり方検討委員会の中でも10回も協議なされた。あの場に出された意見は、中学校2校としていたのに1校になったのはどういうことか、非常に疑問で議論が飛んでいる状況、そういう話を聞いておりますので、さきほど申し上げたようなことをやれば国から補助はでるのではないかと。以上、2点。

それからもう一つ、有識者会議の委員構成はどのように行われたのか。例えば、議事録を見ますと専門は省エネ、再生可能エネルギーをやっておりますという方、あるいは、子ども環境、建築計画、都市計画を専門にしている方、どうしてなのでしょう。学校経営とか学校運営とかのプロフェッショナルがいっぱいいるじゃないですか。なぜ、そういう方をいれなかったのかと私は思います。

もう一つ、とても重要なことですがこれもメモしてください。資料の13枚目、中学校を1校に統合する理由の②ですね、市全体が学区となることから視野が広がり、寒河江市の今後を考える視点、郷土愛醸成の面からも効果的、これは有識者会議で発言なさった方のご意見を参考に表現しているわけですね。それは1校にした場合、寒河江市全体のことを考えられる子どもを育てることができる、未来を担っている子どもたちを育てていくことができる、そのことがよくわかりましたと委員長は言っている。これは第1回目の有識者会議で言っているのは、私は大問題だと思います。よろしいですか、2校や3校だって市全体を考える子どもが育っているんですよ。とんでもない話です。考えてみてください、市長、副市長はどうです、市街地外出身の方が多くないじゃないですか。南部だって市全体のことを考えているんですよ。だから私は出席しているんですよ。こんな内容を出すのがおかしい、はずかしい内容です。出さないでください。ビックリしました。委員長がそのようにご発言なさったので出したと思うのですが、こういったようなことが非常に多く問題点として有識者会議ではあったと思います。最後に、有識者会議で傍聴要領を守らない方がいました。お気づきですか。傍聴席にいて私も聞いたわけですが、会議が終了したあとにすごい拍手をなさった方がいました。これはダメです。なぜ注意されなかったのですか。私は注意しました。それはダメだと指さしました。その市民を代表する職についている方だと思うと非常に私は驚いているし、わからなかったですね。会議というのをしっかり運営するという意識にかけているのではないですか、傍聴の要領をつくったということで終わってしまっている。作ったことがスタートなのです。そういう意識でことを進めてください。他の方も質問したいと思いますので、以上で終わります。

(教育長)

いろいろな面からご指摘ありがとうございます。ご指摘内容で我々がこれから考えていかなければならないことはきちんとやっていきたいと思えます。ご質問の中で有識者会議のメンバーの選定ですが、寒河江市のまちづくり等の会議にも関わってくださっている、つまり、寒河江の状況もわかってくださっている方を選定しております。また、教育関係以外も多いというのは、まちづくりとか、これから新しい施設を建設するときはどういった点に注意していくべきかとか、そういったことも専門的な分野からご意見をいただきたいということで、こういうメンバー選定になったところです。

最初にありました学区の大幅な編制替えでの中学校2校化については、1つのご意見としてお伺いしたいと思えます。ただ、我々がいろいろ検討してきた中で大きいのは、子どもの人数が減っていくということです。例えば、2つにしていたとしても人数がどんどん減って行って、3クラスくらいの規模の学校になってしまいます。例えば、町とかではそういった人数で、そのくらいの規模というのはあると思えます。でも、寒河江市では1校にした場合、令和12年度では、950名くらいいるわけですが、統合の5年後には、800人ちょっとの人数になっていく、今の人口の状況を見てもどんどん減っていくことが想定されますので、そうしたことを考えたときに最初は人数的に多いですが、その後のことを考えていくと1つの学校でも中規模校になっていくわけで、そうした中で子どもたちがいろんな子たちと関りながら活動していくのが、子どもたちにとってプラスになると考えてこのような案にしたところです。

(発言者C)

大変申し訳ないのですが、有識者会議の中である方がこういうことを言っています。中学校の1校か2校ということにいて、実際の学校の経営とか教育内容のことがわからないので前置きして、判断しかねるわけですが、人口4万人の自治体では1校か2校かは迷うところがあると思えます。よろしいですか。実際の学校の経営とか教育内容がわからない委員、違うじゃないですか。私は、とってもおかしい会議だと思えますね、有識者がコノ字になった会議の席上で発言することを見ているのが、我々の傍聴席の方を見ているのです。なにをやっているんだろうこの有識者はと思いました。おかしいですよ。そういうことを教育長は変だなと思ったら注意すべきだし、この有識者会議とはどういうものなのかを意識させる必要がある。私はもう一回有識者会議を開いた方がいいのではないかと思うくらい、さきほど申し上げたとおり2校にした場合に国から補助金が得られるようなメモしていただいたと思えますが、統合のありかたもあると思えます。ぜひ研究なさってください。それから、高畠モデルということで、高畠町の1校になったことを何回も説明したときがありましたよね、こういう風に高畠町は統合しました、すばらしい施設ができた、高畠町と寒河江市を比較してみてください。人口は半分、人口密度は三分の一くらい、そんなところに1校ですよ。ですから、寒河江は2校あってもおかしくない、高畠町と寒河江との比較になろうかと思えます。人口が減っていく度合いもほぼ同じですから、それはしょうがない。国全体が減っていくわけですから、ただし、どのくらいの規模と考



えたときには、減ったところの教室を地域に還元するという事で、市民との協働活動ができるようなスタイルに進めていくのが国全体の考え方ですから、そういったことも含めて、減るからできないのではない、減ったらどうするかということを具体的に考えてみてください。教室とか減ってくるわけですが、それを減ったときに使わないというのは、もったいないわけですから、それを有効活用する方向で動いているわけですから、そういう説明をすれば減ったら1校にするんだということではなくて、2校にしても基本的には減った場合、このように活用しておりますよという考え方ありますという説明をすべきではないでしょうか。2校案については非常に消極的な態度でここまで進めてきた印象です。これは私の印象だけではなく、傍聴されている方に質問したときに、やっぱりそういう話をされた方が多い。あまり偏らないようにするべきだと思います。

(学校教育課長)

ご意見ありがとうございました。その他いらっしゃいますか。ないようでしたら以上で終了いたします。